

じえじえじえ！！

南会津 白沢岳をめぐる沢

(大津岐川滝沢シロウ沢～袖沢金山沢下降～下ノ沢～片貝沢下降～コオリ沢～倉ドノ沢下降)

大濱

【日時】 2013年9月21日(土)～23日(月)

【メンバー】 L飯田、SL手嶋、田辺、大濱

奥只見湖の東にある白沢岳一帯は、アプローチの悪さからかとにかく記録が少ない。特に片貝沢周辺は、一般的には入渓にボートが必要とされており、ましてやその枝沢など、全くもって得体が知れない。けれど、行ってみたら「じえじえじえ！」最初のシロウ沢はサテオキ、とにかくどの沢もよかった。アプローチがもっと容易だったら、かなり人気のエリアになっていたと思います。貝ノ岨スラブは登れなかったけれど、次に出てくるワクワクそしてビックリする沢登りの楽しさを知ることができて、大満足の沢旅でした。

9/21(土) 晴れ



9:00 出発。大津岐林道は工事中で閉鎖。仕方なく樹海ライン脇のスペースに駐車して、奥只見湖沿いをひたすら歩く。

10:30にようやく滝沢への分岐。ここからさらに1時間で入渓点となる取水堰堤に辿り着く。道中、アケビや山葡萄がなっていて、秋の気配。

11:30 シロウ沢入渓。シロウ沢は単調なゴーロ歩きのみだ。二俣手前で小熊が横

切ったのを先頭の飯田さんが確認し、笛を吹きながら待機するが、母熊は姿を現さず、5分程で遡行再開。1280mの二俣は左へ、1400mは右、次に左…と進んでいくと、次第に岩が立ってきて細かいスタンスを使っただけの岩登りとなったが、稜線間近まで細い水流のある沢型を詰めることができ、藪漕ぎほとんどなしで狙い通りのコルに出ること





ができた。

14:50 金山沢下降開始。出だしは、急斜面を灌木に捕まりながら下るが、次第にナメ底がはっきりとしてきて、快適に歩けるようになった。その後は大きな滝もなく、延々と続く黄色の可愛いナメを下ることができる。下降には適した沢だが、意外に長い。秋の日はずるべ落として、夕暮れが刻々と近づく。今宵の幕場を探しながら下降を続け、16:45にようやく見



つけた左岸の平地(1200m付近)で幕とした。

9/22(日) 晴れ

7:15 出発。予想外に暖かく快適な夜だった。そのせいで昨夜の疲れと日頃の睡眠不足を解消しまくり、1時間の寝坊。2日目は金山沢の下降の続きから。10分程で中門沢との二俣。二俣では一気に水量が増え、2段10mの豪快な滝と大きな釜が待っていた。ここで、飯田さんが竿を出し、中門沢を遡っていく。私達はのんびりと休憩でもしようかと思っていたら、そんな暇もなく、飯田プロが30cmはあろうかという丸々とした岩魚を釣り上げた。「えっもう!？」と聞いたら、なんとすでに2匹目だという。今晚は岩魚祭りだ!



中門沢(ミノコクリ沢)は水量の多い滝と豊かな釜が交互に現れ、背後から射す朝日に照らされてとても美しかった。朝っぱらからきゅっきゅとはしゃぎながら歩いていたら、あっという間に下ノ沢出合に着いてしまった。

8:20 下ノ沢遡行開始。下ノ沢は、出合こそ貧相でスカ沢の気配が漂っていたが、入っ

ですぐに綺麗な白いナメが始まる。涼しげな小滝と小さな釜を快適に超えていくと9:10に二俣。ここから右俣を遡行する。ナメはずっと続くが、所々に黒い苔がついてぬめり始め、高さのある滝ではお助けを出して頂いた。8m滝では、会長・副会長による沢登り講習会の寸劇が始まり、ありがたく受講させて頂く。お代は出世払いで。

稜線が見えるようになると、斜面は灌木混じりの草付急斜面となる。高さはないが垂直の壁をお助けで登らせて頂いた跡は、スパイクをつけてザクザクと高度を稼ぐ。次第に藪が濃くなり、慣れない私は一人、右往左往してしまった。稜線に出て尾根を1つ越え、いよいよ片貝沢に降りる。

12:00 片貝沢下降開始。灌木伝いに下っていくと、早々に10mツルツル滝の懸垂下降を強いられる。その後も細いながらも立ったナメ滝が現れ、脇の灌木を使って巻いたりして何とか下る。出だしは倒木や岩で埋まっていたが、1180m二俣手前からナメの様相がはっきりと表れ出した。ここからは延々とナメ！一枚岩を水流が削った不思議な溪相に、いちいち振り返ってはうっとりする。魚影が濃く、バシャバシャと豪快に歩いているにもかかわらず、時々岩魚がすねに激突してくる。さらには、なんと岩陰に隠れた岩魚の手掴みにも成功！両手で掴んで漸く持てるほどデカイ！が、5秒程もがいて私の手の中から脱出して行ってしまった。



水量の多い10m大滝は上部を左岸から懸垂下降し(一瞬空中懸垂になる)、下部は釜に沿って大岩の上をてくてく歩く。柱状の大岩(柱状節理と教えて頂いた)やブロック状の岩が積みあがった3段8m滝(右岸を簡単に降りられる)など、変化に富んでいて飽きない。陽が傾き始めても片貝沢はまだまだ続くので、16:50に800m付近左岸のブナ森の中で幕とした。岩魚2匹は利香さんがムニエルにして下さった。これが絶品！幸せを噛みしめ、夜は更けていく。

9/23(月) 晴れ

6:25 出発。磨かれた白岩の下降からスタートする。釜や小滝を越えて5分も歩かずにコ





途中背後を振り返ると、真正面に巨大なスラブ壁が見えた。最初は貝ノ岨スラブだろうと思ったけれど、方角が全く違う。その白壁はかなり広範囲に亘っており、遠くにあるにもかかわらず、全貌は見渡せない。あの壁の下に立ったら、すごい迫力だろう。(帰宅後早々に、手嶋さん&飯田さんはこの謎のスラブ壁登攀を計画しだした。)

960mで左俣へ進むと現れる12m滝は、中段からお助けを出して頂く。二俣を左、左と進むと10m滝。これは滑っていたので、無理せず右岸の踏みあとから巻く。が、最後灌木が途切れていて、沢に戻るためにザイルを出した。沢が左に折れるところを右に入り、稜線のコルに出た。見事なブナ林の中にぽっかり

りとステージのような開けた場所がある。周りには古い切りつけ(S四年とあった)を持つブナが何本か。仕留めた獲物の解体場所だったのかも。

10:10 倉ドノ沢下降開始。こちらの沢もやはり、ナメ。が、けっこうな滝が連続して現れる。8mナメ滝をそろそろと下ると、すぐにストーンと切り立った12m滝。右岸の灌木に支点を取り懸垂で下降する。さらに進むとすぐに15m滝。右にトイ状の滝があり左はクラック気味の不思議な形状だ。右岸を懸垂下降。さらに急な斜面の30mナメ滝に出たが、これはアクアステルスが効いて歩いて降りられた。このナメ滝はちょっと不思議で、上から見ると白いのに、降りてきて振り仰いで見ると茶色い。二俣を過ぎて、ぐんぐん下降すると6m2条滝。右側を補助ロープを掴みながら降りる。



12:50 一ノ沢本流。楽しかった沢旅もとうとう終わりに近づく。左岸から林道に上がり、樹海ラインまで長い道を歩いた。

今回これでもかとナメが続いたため調べてみたら、今回周回した奥只見湖南東部一体は、「白亜紀後期流紋岩溶結凝灰岩」からなるそうです。水で浸食され易いから、深い谷や滝など特徴的な地形を形成するのだそう。なるほど。

【行程】

9/21 駐車スペース(9:00)～シロウ沢入渓点(11:30)～稜線(14:40/14:50)～金山沢下降～C1(16:45)

9/22 C1(7:15)～中門沢との二俣(7:25/7:45)～下ノ沢出合(8:20)～稜線(11:00)～



藪漕ぎ～片貝沢下降点 (12:00)～C2 (16:50)

9/23 C2 (6:25)～コオリ沢出合 (6:30)～稜線 (9:50/10:10)～倉ドノ沢下降～一ノ沢本流 (12:50/13:05)～一ノ沢林道～駐車スペース (15:00)

【地形図】 奥只見湖・平ヶ岳・高幽山・会津駒ヶ岳

【グレード】 通しで3級

